

「夢の技術で豊かな未来に」

宮城県登米総合産業高等学校 情報技術科 3年 佐藤 拓海

私は、昔から憧れに近いものを抱く技術があります。それは、近未来 SF の映画や小説、漫画などでよく出てくる、何も持っていなくとも空中や身体の一部にコンピュータの操作ウィンドウを投影して使える携帯電話のようなものです。これに加えて、コンタクトレンズを介して自分の視野にコンピュータのウィンドウを展開するという形のものもあります。それら二つに共通している技術は、端末でディスプレイをタッチしたりボタンを押したりすることなく、使用者が手で特定の動作をしたり頭で「使う」と考えることによって、簡単に電話やメール、インターネットなどの機能を使う事が出来るといった技術で、ぜひ実現してほしいと私は思っています。

実現するためには色々と問題があります。しかし、今までのように端末を持つ必要がないため、場所を取る事が無くなります。そして、そもそも端末を持ち歩く必要がない事から落として失くしてしまうことや、中身のデータや電話番号、メールアドレスなど個人情報が出し、誰かに悪用される心配もありません。それらのセキュリティ面に加え、操作が簡単であること、またはその操作方法を頭で考えるだけや、声で支持するだけで、とさらに特化させていければ、現在、携帯電話やスマートフォンを利用している人たちだけではなく、体の不自由な人やご老人、小さな子供など機械の操作が難しい人々でも使えるようになります。また、これらをさらに発展させて、思考の読み取りと外部装置との通信などを行い、声やジェスチャーに代わる新しい意志の表現方法を作り出すこともできると思います。

最近のスマートフォンでは、声でいろいろな操作ができるようになってきました。これから先の未来では、電気回路の小型化や通信技術のさらなる高速化など、様々な技術が発展していき、今以上に豊かで便利な世の中になってほしいと私は思っています。